

# 錦 橋

## 1. 橋の現況

### 周辺エリア

- 錦橋の北側にある高さ200mの超高層ツインタワー「中之島フェスティバルタワー」の完成により、従来のオフィス中心であったまちから、商業、ホール、ホテル、美術館の立地によって集客性・エンターテインメント性のあるまちに変化しています。
- 香雪美術館や、大阪中之島美術館、国立国際美術館、大阪市立科学館も近く、文化的な拠点と言えます。



### 錦 橋

- 橋長:55.12 m
- 幅員:10.55 m
- 竣工:1931(昭和6)年
- 種類:歩行者専用橋(人道橋)  
元は土佐堀川可動堰

#### 【特徴】

～インフラ～

- 過去の社会実験を通じて電気・水道・倉庫などのインフラ設備を完備



### ポテンシャル・連携施設

- 橋の北側に隣接するフェスティバルホールは、大阪都心の主要なホールであり、クラシック、オペラ、バレエからポップス、伝統芸能まで多様なジャンルの公演を行う「音楽の殿堂」と言われています。

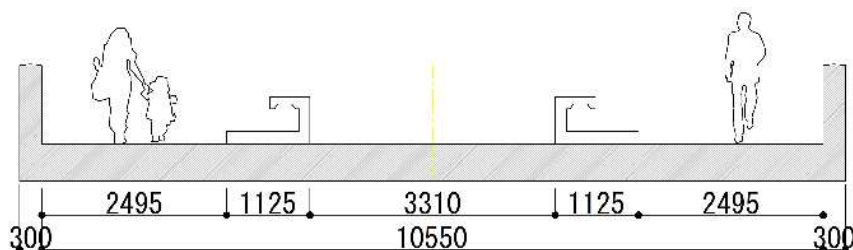


### 歴史 加島屋400年

- 2025年は、商都大坂の豪商・加島屋が創業した1625年から400年という節目の年にあたります。



- 幅約10メートルを活用できた場合、通行帯を確保しながら滞留・賑わいの広場として、多様な活用を行うことが可能です。



## 2. 社会実験の取り組み内容と検証結果

2024年 水都大阪ブリッジテラス2024秋 2024.10.11~12



- 橋の日常管理、担い手の発掘・醸成、大阪万博を契機にした橋上空間の魅力発信などを目的として、企業、大学などによる水都大阪ブリッジテラス実行委員会<sup>※</sup>を発足し、橋上を周辺地域のワーカーや住民の憩い空間として活用する社会実験を実施しました。
- 具体的には、マルシェの開催、植栽帯をテラスとして活用、清掃・花植えなどを行っています。

### 【検証結果】

- ① 橋上でのコンテンツ開催による集客や安全性などを確認
- ② 交通上(歩行空間)や音の問題ないことを確認
- ③ 電気・水道・倉庫といったインフラ機能が必要であることを確認

※2025年3月までは「中之島ブリッジテラス実行委員会」

2025年 水都大阪ブリッジテラス2025春 2025.5.15~18



- コンテンツの更なる魅力化、集客性のあるものとしてビアガーデンを開催するとともに、ベンチの設置・植栽帯上部の活用(テラス利活用)を実施しました。
- 「加島屋橋」のイベント・歴史展示を実施するとともに、期間限定の橋名板「加島屋橋」の設置を行っています。

### 【検証結果】

- ① ビアガーデンの開催・テラス利活用については収益性は十分で、沿道企業の活用意向が大きいことを確認
- ② ベンチのニーズと機能として、収納、テント、取り外し可能な人工芝、タープ、スピーカー等を確認

水都大阪ブリッジテラス2025秋 2025.10.2~5



- 初めて連携する企業等との共同イベントの開催により、社会的価値の発信と広報を充実させました。

### 【検証結果】

- ① 橋上の利活用の幅を広げるためには、植栽帯のあり方を見直し、フレキシブルに活動の行える空間を確保することが必要であることを確認

# 錦 橋

## 3. 橋とエリアの将来像を示す2030ビジョン

- 幅約10メートルという、ヒューマンスケールの空間を持つ人道橋という特性を活かして、滞在機能とともに、来訪者と地元企業、他都市関係者などとの多様な交流機会の創出、ひいてはイノベーションの創出などによるエリアの活性化などに期待が持たれます。
- 橋の周辺に立地するエンターテインメント施設との連携を図ることで、水都大阪の一層の魅力を高めることとなります。



フレキシブルな空間

居心地の良いデッキ  
・滞留空間

音楽や文化発信の場



### 人と人をつなぐ

夕方17時以降、  
美味しい飲み物や季節の料理を手に、  
近隣の人々の気軽な交流の場に。

水都大阪にふさわしい橋上空間の魅力向上に向けたコンセプト

## 人と人、時をつなぐ橋

### 過去と現代をつなぐ

江戸時代のウォール街として  
金融をリードしたエリアの  
歴史を伝える拠点に。

### 都市と地方をつなぐ

日本各地の生産者やアーティスト  
が集い、その土地の魅力を伝え、  
他都市との交流を育む場へ。

### 地域主体による活動イメージ

#### ① アートベンチの占有・管理

- 企業の寄附金活用(管理活動を含めた検討)
- 沿道企業を中心に日常の維持管理(清掃・巡回等)の内容  
や新たな活動体制を検討

#### ② 月一マルシェ/ビアガーデンの実施

- 夕方以降のアフター5交流イベントの定期開催
- フェスティバルホールの音楽・演劇と連携したBGM企画
- 収益を維持管理に充てる、マネタイズの内容を検討

#### ③ 季節ごとの文化・交流イベントの実施

- 沿道企業との共同企画
- さらなる基金充実の検討



# 錦 橋

## 4. 2030に向けたロードマップ

「水都大阪ブリッジテラス2030ビジョン」策定 ▼

第1フェーズ(～2025年)

第2フェーズ(2026年～)

試行期間

活動促進期間

利活用ポテンシャルの検証

### ■ ハード施策 [空間デザイン/機能]

#### ■ 滞留空間と通行空間の断面(幅員)の検証

- 必要とする通行幅員を確認
- 芝生化した植栽帯上部・橋上中央空間活用の可能性を確認
- ベンチなど必要となる機能を確認
- 多様な利活用(規模の大きなマルシェやイベント)では、植栽帯が活動の支障となることを確認

#### ■ エリア活動を促進するインフラ設備の検証 (電気・水道・倉庫)

- 電気設備の設置
- 既存水道設備の改良が必要であることを確認
- 活動に必要なとする倉庫容量を確認

#### ■ 安全・安心・魅力の向上を図る橋上空間の検証

- 高欄・袖壁ライトアップ実験の実施による安全性、演出効果を確認

### ● ソフト施策 [マネジメント]

#### ● 事業ニーズの検証

- 橋上での販売を通じた飲食ニーズの確認
- ビアガーデンの開催・テラス利活用については収益性は十分で、沿道企業の活用意向が大きいことを確認

#### ● プレイヤーの発掘

- 周辺企業との連携強化
- 音楽、マルシェなど多様なプレイヤーによるコンテンツ・賑わいの創出

周辺企業を中心とした協議会の設立

### ■ ハード施策 [空間デザイン/機能]

- 植栽帯の撤去と滞留空間のファニチャーの設置・検証
- 橋上での活動を顕在化する情報板の設置
- 高欄・袖壁のライトアップ
- 水道設備の改良
- 倉庫機能の拡充

### [第2フェーズの主な取組み]

橋上に近隣の人々の交流の舞台とする多機能デッキなどを配することで、周辺企業が連携した多様な企画を通じて、交流を育みます。

※（仮称）橋上空間等のマネジメント基本方針  
橋の維持管理や賑わい創出などのマネジメントに係る  
考え方やルールをまとめたもの

▼ 「（仮称）橋上空間等のマネジメント基本方針※」策定

第3フェーズ（2028年～）



植栽帯の撤去と滞留空間のファニチャーの設置・検証

日常利用のイメージ



イベント利用のイメージ



# 水晶橋

## 1. 橋の現況

### 周辺エリア

- 周辺は文化・業務施設が多く見られます。そのため、地域の担い手については存在が薄くなっていますが、一方で文化施設などの指定管理者が存在します。

水晶橋周辺には公園・文化施設が立地



### 水晶橋

- 橋長: 72.33m
- 幅員: 9.09m
- 竣工: 1929(昭和4)年
- 種類: 歩行者専用橋(人道橋)  
元は堂島川可動堰

#### 【特徴】

～インフラ～

- 過去の社会実験を通じて電気・水道・倉庫などのインフラ設備が完備

～景観～

- 堂島川・中之島のビル群・阪神高速のライトアップなどが見渡せる視点場

### 周辺図



### ポテンシャル・連携施設

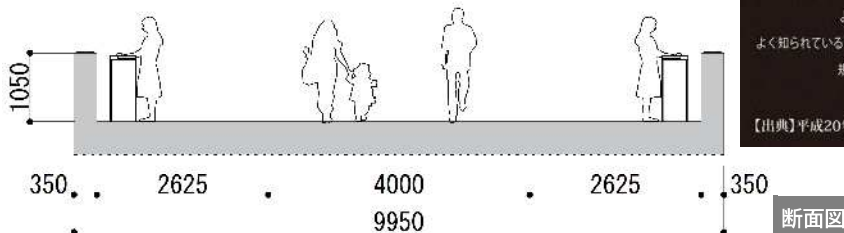
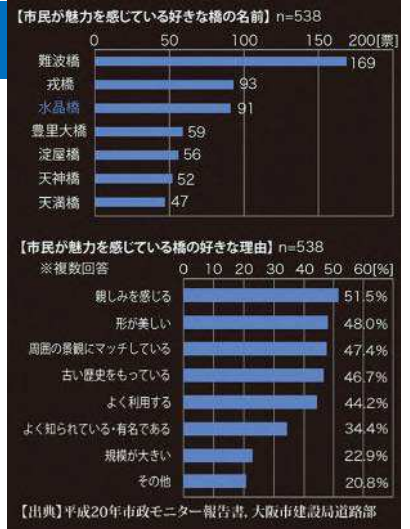
- 橋の上流には可動堰の名残りである導流堤があり、2024年と2025年の水都大阪ブリッジテラスでは、この施設を活用したSUP実験が行われています。
- 中之島公園や近年、歩行者空間化(公園化)が行われた中之島通などでは多様な主体により賑わい活動が行われています。

水晶橋は大阪市内の橋のなかでも特に市民が魅力を感じている橋のひとつ



導流堤

中之島公園の賑わい



- 幅約10メートルを有することから、通行帯を確保しながら滞留・賑わいの広場として、多様な活用を行うことが可能です。

## 2. 社会実験の取り組み内容と検証結果

2023年

中之島ブリッジテラス2023オースタム 2023.10.21

- 市民団体等による橋の日常管理、担い手の発掘・醸成、大阪万博を契機として、橋上空間の魅力発信などを目的とする産官学民で構成する水都大阪ブリッジテラス実行委員会※を発足し、橋上を周辺地域のワーカークラスや住民の憩い空間として活用する社会実験を実施しました。

**【検証結果】**

- ① 橋上でのコンテンツ開催による集客や安全性などを確認
- ② 電気・水道・倉庫といったインフラ機能が必要であることを確認
- ③ 既存の植栽プランターが利活用の幅を狭めることを確認
- ④ 飲食販売を階段下部分に設置したが分かりにくく、利用のしにくさを確認

※2025年3月までは「中之島ブリッジテラス実行委員会」



飲食販売

2024年

水都大阪ブリッジテラス2024秋 2024.10.26~27

- ベンチの展開による滞留空間の検討、歴史・文化の発信、マルシェの試行、導流堤を活用した水上さんぽを開催しました。

**【検証結果】**

- ① 植栽プランターの撤去により、コンテンツ展開の幅が広がったこと、円滑な通行空間を確保可能なことを確認
- ② 導流堤を活用した水上さんぽでは、運用上の安全性をはじめ、ニーズ、事業者による事業の可能性を確認



導流堤の利活用



飲食販売

2025年

水都大阪ブリッジテラス2025春 2025.5.15~18

- マルシェや水上さんぽ体験をはじめ、灯籠づくり・ハーバリウムワークショップでの屋台展開、また、ほんのもりピクニックといった周辺エリアとの連携コンテンツを実施しました。
- 2023年の学生ワークショップで検討した、可変的な配置や組合せが可能なユニットベンチの日常的な展開方法を試行しています。

**【検証結果】**

- ① 形を自由に展開できるユニットベンチは、様々な利用に適應できることを確認
- ② 橋体はインフラツーリズムなどでの活用の可能性があることを確認



ほんのもりピクニック



ユニットベンチ



橋体インフラツーリズム体験

水都大阪ブリッジテラス2025秋 2025.10.9・10・12・13

- 2025年秋では、これまでにない取り組みとして人工芝を敷設し、遊具を配したこどものあそび場を設置しているほか、北浜蚤の市との連携を行いました。
- また、春に実施したユニットベンチは設営の負担を減らす寸法に改良を行っています。現地では、レイアウトパターンを複数展開しました。

**【検証結果】**

- ① 北浜蚤の市をはじめ、エリアでの連携により集客の可能性を確認
- ② ユニットイベントは場を構成する有効な施設ですが、事業者などによる設置、撤収などの運営について課題があることを確認。



こどものあそび場



北浜蚤の市



お弁当販売

# 水晶橋

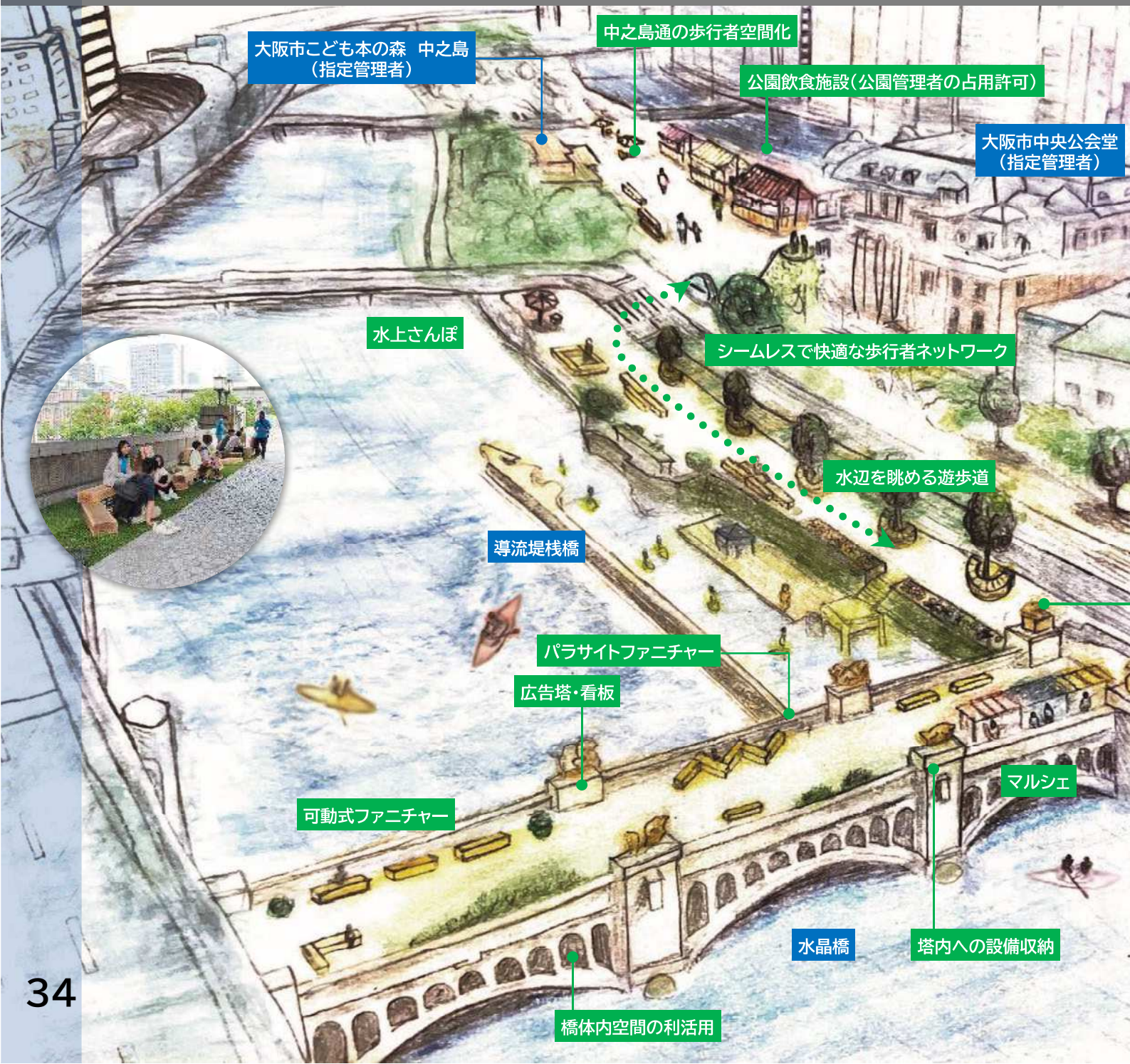
## 3. 橋とエリアの将来像を示す2030ビジョン

- 幅約10メートルという、ヒューマンスケールの空間を持つ人道橋という特性を活かして、滞在機能とともに、来訪者が地元企業、他都市関係者などとの多様な交流機会の創出、ひいてはイノベーションの創出などによるエリアの活性化などに期待が持たれます。



水都大阪にふさわしい橋上空間の魅力向上に向けたコンセプト

## 水と時の流れに触れ、歴史と人を繋ぐ橋

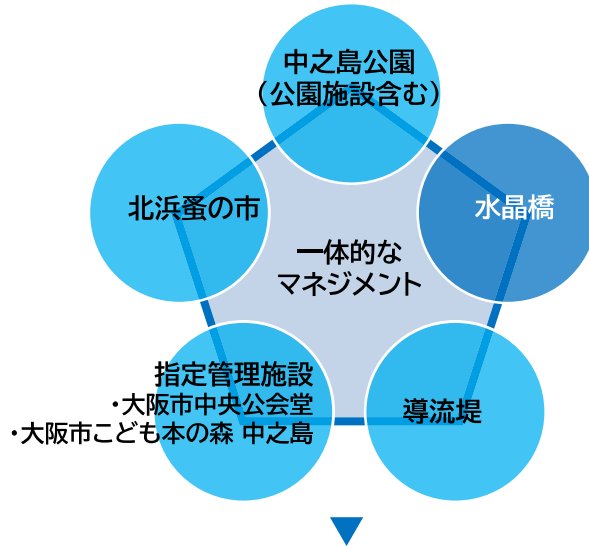




官民連携によるプランター管理

## エリアの一体的な活動イメージ

- 水晶橋は橋単独でのマネジメントではなく、周辺エリアと一体的にマネジメントを行うことで、中之島公園を含めたエリア全体の魅力を高めることが期待されます。



- エリア全域を活用した魅力向上
- マネジメント活動の効率化



沿道地域による面的なイベント



水晶橋



導流堤

# 水晶橋

## 4. 2030に向けたロードマップ

「水都大阪ブリッジテラス2030ビジョン」策定 ▼

第1フェーズ(～2025年)

第2フェーズ(2026年～)

試行期間

ネットワーク  
促進期間

利活用ポテンシャルの検証

### ■ ハード施策 [空間デザイン/機能]

#### ■ 滞留空間と通行空間の断面(幅員)の検証

- 植栽プランターの撤去により、コンテンツ展開の幅が広がったこと、円滑な通行空間を確保可能なことを確認

#### ■ エリア活動を促進するインフラ設備の検証 (電気・水道・倉庫)

- 電気設備の改良
- 既存水道設備の改良が必要であることを確認
- 活動に必要とする倉庫容量を確認

#### ■ ユニットベンチのレイアウト検証

- 形を自由に展開できるユニットベンチは、様々な利用に適應できることを確認

#### ■ 導流堤の利活用試行

- 導流堤を活用した水上さんぽでは、運用上の安全性をはじめ、利用ニーズ、事業者による事業の可能性を確認

### ● ソフト施策 [マネジメント]

#### ● 事業ニーズの検証

- 橋上での販売を通じた飲食・ランチニーズを確認

#### ● プレイヤーの発掘

- 水上アクティビティ・飲食・マルシェなど多様なプレイヤーによるコンテンツ・賑わいの創出

#### ● エリア連携のあり方の検証

- 北浜蚤の市やこども本の森 中之島などとの連携

#### ● 橋体内の利活用試行

- インフラツーリズム(橋体)の可能性を検証

### ■ ハード施策 [空間デザイン/機能]

- 周辺エリアとの連続性を確保する動線・誘導内容の検証
- 水道設備の改良

### [第2フェーズの主な取組み]



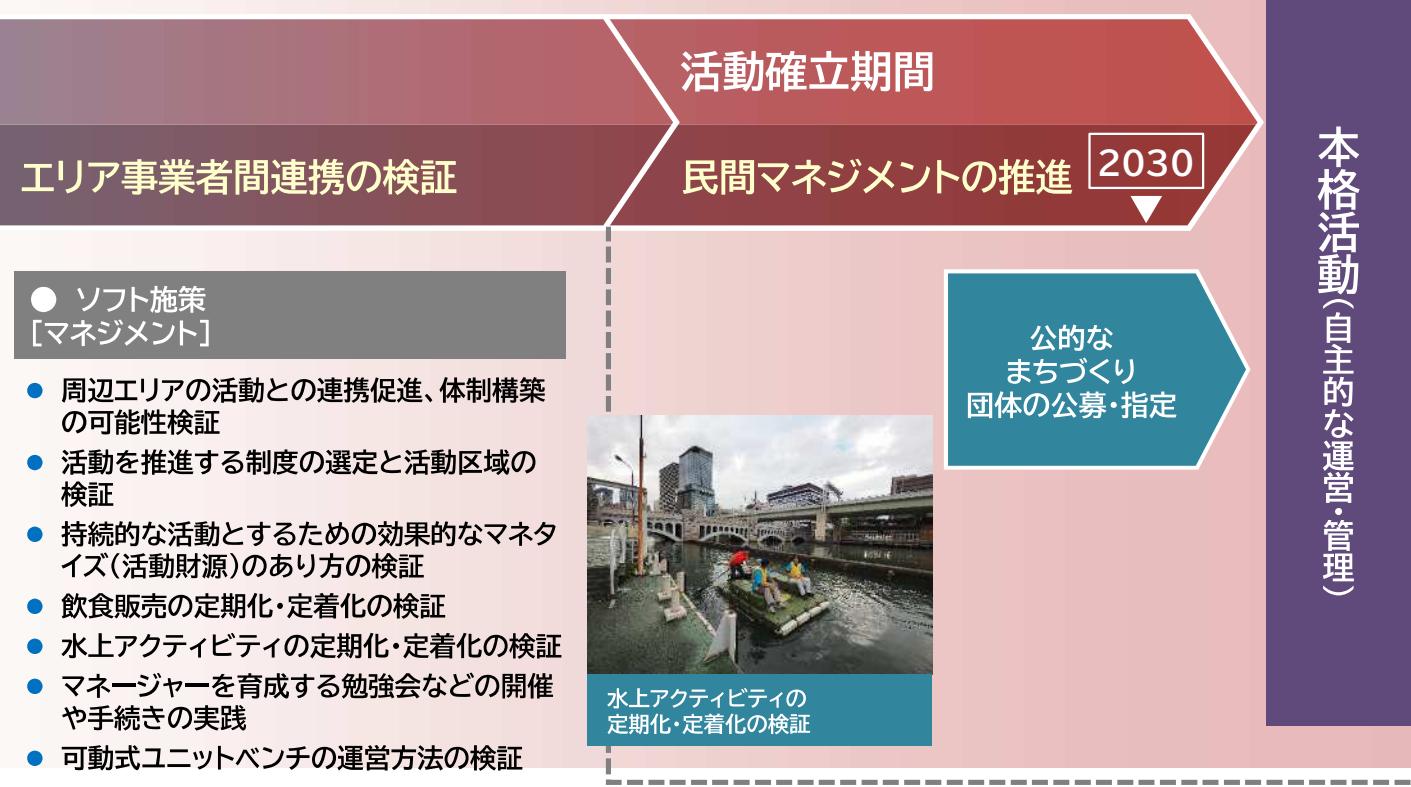
A案:横並び配置  
横軸方向に沿った連続的な滞留

可変式のベンチは、基本的な機能として、憩いの空間を形成するとともに、橋上での活動に合わせて、同一ユニットのベンチを組み合わせることで様々な利用形態に対応することを可能にしています。

※（仮称）橋上空間等のマネジメント基本方針  
橋の維持管理や賑わい創出などのマネジメントに係る  
考え方やルールをまとめたもの

▼ 「（仮称）橋上空間等のマネジメント基本方針※」策定

第3フェーズ（2028年～）



● ソフト施策  
[マネジメント]

- 周辺エリアの活動との連携促進、体制構築の可能性検証
- 活動を推進する制度の選定と活動区域の検証
- 持続的な活動とするための効果的なマネタイズ（活動財源）のあり方の検証
- 飲食販売の定期化・定着化の検証
- 水上アクティビティの定期化・定着化の検証
- マネージャーを育成する勉強会などの開催や手続きの実践
- 可動式ユニットベンチの運営方法の検証



水上アクティビティの定期化・定着化の検証

公的な  
まちづくり  
団体の公募・指定

本格活動（自主的な運営・管理）

可動式ユニットベンチの運営方法の検証

周辺エリアとの連続性を確保する動線・誘導内容の検証



B案：コの字・囲み配置  
グループでの空間利用



C案：ハの字  
少人数での空間利用、ソシオパタル・ソシオフーガル



橋上の利活用

エリアをつなぐ魅力ある  
回遊ネットワーク



回遊動線を形成する水際歩道

水上アクティビティによる  
他エリアとのネットワーク



水上アクティビティ



中之島通での北浜蚤の市など



β本町橋など